

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金 分担研究報告書
医療機関における治療と仕事の両立支援の推進に資する研究

意見書を作成する医療面接の教育コンテンツ作成

研究分担者 森 晃爾 産業医科大学 産業生態科学研究所 教授
研究分担者 永田昌子 産業医科大学 産業生態科学研究所 学内講師
研究分担者 原田有理沙 産業医科大学 医学部 両立支援科学 助教

研究要旨：

本分担研究では、両立支援を多くの医療者の実践を促すために、医療者への教育資料を作成することを目的とした。

両立支援の重要性が注目され、医療機関では両立支援が求められている。しかし、両立支援に関する体系的な教育等の機会はなく、また仕事の話面接した経験がないため、両立支援に必要な職場情報等の取得などは容易ではない。そのため、面接の主要な目的である診断や治療に関することが優先されてしまう現状がある。

そこで、本分担研究では、実際に意見書作成のための医療面接の教育コンテンツを作成することとした。研究班メンバー等で議論を重ね検討し意見書作成に必要な3要素として、以下3つそれぞれに盛り込むべき項目を抽出した。1) 良好なコミュニケーション形成、2) 医療情報取得、3) 職場情報取得。撮影されたビデオについては以下のものについて限定公開を行っている。

① 両立支援の良好面接事例

<https://youtu.be/Z9jbJ2SSIbY>

② 両立支援の改善すべき面接事例

<https://youtu.be/bI6BteKJD3M>

両立支援の標準的な診察風景を撮影することができ、両立支援のイメージを医療職に伝えやすくなったと考えられる。北九州や鹿児島、兵庫での医療機関向けの研修会で取り上げてみたが、医療職からの評価は狙い通りのものが得られた。

次年度は、他疾患を取り上げるバージョンを作成しさらに両立支援のイメージがわくようなコンテンツを作成していく。

研究協力者

平田 敬治 産業医科大学 医学部 第1外科 教授
橋本 博興 産業医科大学病院 両立支援科 医師

A. 目的

両立支援の重要性が注目され、医療機関では両立支援が求められている。しかし、両立支援に関する体系的な教育等の機会はなく、また仕事の話面接した経験がないため、両立支援に必要な職場情報等の取得などは容易ではない。そのため、面接の主要な目的である診断や治療に関することが優先されてしまう現状がある。

そこで、本分担研究では、実際に意見書作成のための医療面接の教育コンテンツを作成することとした。

B. 方法

研究分担者と研究協力者で協議し、映像コンテンツの対象者、目的、内容について協議した。複数回協議し、意見書作成に必要な3要素として、「良好なコミュニケーション」、「医療情報取得」、「職場情報取得」に着目した。コミュニケーション要素は、「治療と就労の両立支援マニュアル（労働者健康安全機構）」などを参考に主に実務に携わる研究班メンバーで議論を重ね重要な要素を選定した。医療情報取得、職場情報取得については、産業医科大学病院・両立支援科・外来医師4名のヒアリングより盛り込むべき項目を抽出した。抽出した項目をもとに、シナリオを作成した。シナリオをもとに映像コンテンツを作成後、複数の協力者に意見を求め、適宜修正を行った。

また、映像に説明を盛り込んだテロッ

プバージョンも作成した。

C. 結果

- 意見書作成に必要な3要素として、以下3つそれぞれに盛り込むべき項目を抽出した。

1) 「良好なコミュニケーション」オープンな質問からスタートする。

- まずはじっと患者の言葉に耳を傾ける
- 受容的に接する
- その人への関心を示す、知ろうとする姿勢で聴く
- 患者や家族の気持ちや気がかりを受容的に受け止める
- わかりやすい言葉を心がける
- 患者の話した言葉を言い換えて、理解したことを伝える
- 心配なこと、困っていることを聞く
- 一方的に決めつけずに、少しずつ質問に焦点を絞って確認していく

「医療情報取得」

- 症状が影響を与えそうな状況がないか確認する

「職場情報取得」

- 勤務情報提供書をもとに、仕事の内容を確認する
- 作業内容（動作）を確認する
- 高負荷作業は、特に確認する
- 危険作業については、特に確認する

- 就労時間・作業時間を確認する
- 上司や同僚といった職場環境を確認する
- 職場に利用できる制度があるか確認する

ビデオについては以下のものについて限定公開を行っている。

① 両立支援の良好面接事例

<https://youtu.be/Z9jbJ2SSIbY>

② 両立支援の改善すべき面接事例

<https://youtu.be/bI6BteKJD3M>

D. 考察

両立支援の標準的な診察風景を撮影することができ、両立支援のイメージを医療職に伝えやすくなったと考えられる。北九州や鹿児島、兵庫での医療機関向けの研修会で取り上げてみたが、医療職からの評価は狙い通りのものが得られた。

次年度は、他疾患を取り上げるバージョンを作成しさらに両立支援のイメージがわくようなコンテンツを作成していく。

E. 引用・参考文献

- がんに罹患した労働者に対する治療と就労の両立支援マニュアル（独立行政法人・労働者健康安全機構・平成 29 年 3 月）

資料1 動画設定

かばしまさん 42歳 男性

- 診断名) 大腸がん ステージⅢa
- 仕事) 情報誌製作会社 正社員 営業リーダー
- 家族) 妻 (専業主婦)
- 場面)


1か月前に入院、手術 (人工肛門不要) を受けた。

入院前から休職している。

これから6か月継続する補助化学療法 (XELOX療法) がはじまります。

参考: XELOX療法 21日 (3週) を1サイクルとして 8サイクル (6か月)

- 内服; カペシタビン (1000mg/m²) 1日2回、1-14日
- 点滴; オキサリプラチン (130mg/m²) 1日目 (2時間)



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
内服	夕														朝							夕
点滴	2H																					2H

前半の動画

- 補助化学療法（XELOX療法）が始まりました。
- 1週間後、抗がん剤1回目
点滴後、吐き気やだるさを特に強く感じました。
- 4週間後、抗がん剤2回目
下痢症状が出現しました。
食欲も減ってきました。
- 7週間後、抗がん剤3回目
手足のしびれは徐々に強くなってきました。
抗癌剤を減量することになりました。
また、ハンドクリームなどの対症療法を始めました。

- 10週間後、抗がん剤4回目
しびれの症状は和らぎました。
点滴直後の吐き気・だるさ・下痢の症状が出てくる
タイミングがわかるようになりました。
採血（白血球・血小板）の結果も異常がないようです。
- 抗がん剤は残り4回です。
仕事をしながら治療を受けたい気持ちになりました。
- 職場に記載してもらった勤務情報提供書を持参しました。

後半の動画

人	内容	テロップ (ポイント)	テロップの内容				意見書作成
			コミュニケーション	医療情報取得	職場情報取得		
1	先生 かばしまさん無事に手術終わりましたし、手術前にお話ししていた通り、これから化学療法に入っていきます。まず化学療法のスケジュールや副作用について説明させてください。						
2	(治療の説明：場面の省略)						
3	先生 これまでの説明で気になっていた点や、わからない点ありませんか。						
4	労働者 そうですね。今説明された副作用とか、結構きついんですかね。						
5	先生 個人差があるので確定的なところは言えませんが、それほど症状が強くない方が多い印象ですけどね。						
6	労働者 そうですか。まあ頑張ってみようと思います。						
7	先生 その他ご質問は無いですか。何かありましたら、あとでも結構ですので仰ってください。						
8	労働者 はい。ありがとうございます。						
9	先生 では、頑張りましょう。そう言えば、かばしまさん、お仕事はどうでしょうか。	仕事についてたずね、支援が必要かどうか確認する。オープンな質問からスタートする。	オープンな質問からスタートする。			仕事についてたずね、支援が必要かどうか確認する	
10	労働者 え、仕事ですか。いや、仕事に早く復帰したいんですけど、先生そんなことも相談にのってくれるんですか。						
11	労働者の妻 お父さん、今生きるか死ぬかって話なんだから、仕事の話なんてやめてよ。先生、お忙しいんだから。						
12	先生 今はですね、治療と仕事の両立支援といって、医者も患者さんの仕事への復帰に関わっていく時代なんですよ。今、かばしまさんのお仕事について詳しくお伺いさせていただき、治療にどう反映していくかということを考えなきゃいけないタイミングな気がします。かばしまさん。改めてですけども、職場にこの「勤務情報提供書」を書いてもらって持ってきて頂けますか。次回外来の際に、頂いた情報を元に、かばしまさんのお仕事についてご相談しましょう。	勤務情報提供書で、仕事に関する情報を取得する			勤務情報提供書で、仕事に関する情報を取得する		
13	労働者 わかりました。よろしくおねがいします。						
14	(日を改めて、次の通院日)						
15	先生 (診察風景：省略)・・・では、頑張りましょう。お仕事の件ですが、その後職場と連絡取れましたか。						
16	労働者 はい。前回頂いた「勤務情報提供書」を職場と相談して書いてきました。(渡す)						
17	先生 (受け取る)「勤務情報提供書」の作成をありがとうございました。						
18	労働者 治療のめどがみついたら、仕事のことが急に心配になって、焦ってきまして・・・新しい人も入職したっていうし、担当していた案件も気になってきて、(すこし続く)						
19	先生 (しばらく聞く)そうですね、心配ですね(間を置く)お仕事をどうしていくか、一緒にしっかり相談していきましょう。	まずはじっと患者の言葉に耳を傾ける受容的に接する	まずはじっと患者の言葉に耳を傾ける受容的に接する				
20	先生 お仕事は営業をされているんですね。	勤務情報提供書をもとに、仕事の内容を確認する			勤務情報提供書をもとに、仕事の内容を確認する		
21	労働者 そうです。						
22	先生 具体的な仕事の内容を教えてくださいませんか？	その人への関心を示す、知ろうとする姿勢で聴く	その人への関心を示す、知ろうとする姿勢で聴く				
23	労働者 広告会社の営業になります。1日に5～10社程度訪問して、広告立案や事業のコンサルティングを行います。パソコンを使って資料を作成したり、相手方との打合せになりますね。						
24	先生 営業先では座って話をする感じなんですかね、立って話をするんですかね。	作業内容(動作)を確認する			作業内容(動作)を確認する		
25	労働者 基本的には座って話をすることが多いですね。						
26							
27	労働者 営業先から戻ると、デスクワークが発生するんですが、そこから先はある程度役割分担がされてて、チームでWEBデザインを作っていくという、そういう仕事になっています。						
28	先生 今お話を頂いた限り、基本的にはデスクワークで、重たいものを持ちたり、ずっと立ちっぱなしだったり、暑いところで作業したり、はしないんですね。	高負荷作業は、特に確認する			高負荷作業は、特に確認する		
29	労働者 はい						
30	先生 勤務時間は、長くなりがちだったり、夜になりがちだったりしますか。	就労時間・作業時間を確認する			就労時間・作業時間を確認する		
31	労働者 うーん、営業は確かに相手の都合に合わせた勤務になりがちで、その後も、社に戻ってする後処理もあって。						
32	労働者の妻 (心配そうにうなづく)病気になる前は、ぜんっぜん家に帰ってこないくらい働いていたんですよ。ねえ？またあんなにがんばったら、せっかく治療したのに、からだもたないじゃないかって・・・	打ち合わせではカットの可能性としましたが、カットしなくて結構です					
33	先生 そうでしたか。(おおきくうなづく)それは奥さんもお心配ですね。	患者や家族の気持ちや気がかりを受容的に受け止める	患者や家族の気持ちや気がかりを受容的に受け止める				

34	先生	化学療法中は、ほとんどのの方が以前よりも疲れやすくなるんです。まずは毎日の疲れがたまらないような働き方が、治療と両立して続けやすいですよ。		わかりやすい言葉を心がける	わかりやすい言葉を心がける			
35	労働者の妻	(大きくうなづく)						
36	労働者	化学療法のあとは有給をとるようにして、残業はないように働けるといいかなあ。。。。上司に相談すればわかってくれると思います。						
37	先生	職場と相談してみましょうね。						
38	先生	それと、両手のしびれの症状が出ていますが、大丈夫そうですか？		症状が影響を与えそうな状況がないか確認する		症状が影響を与えそうな状況がないか確認する		
39	労働者	やっぱりキーボードを打つときにしびれを感じるので、以前に比べると作業はやりにくくて、時間がかかりそうですね。						
40	先生	作業スピードに少し影響が出てきそうということですね。		患者の話した言葉を言い換えて、理解したことを伝える	患者の話した言葉を言い換えて、理解したことを伝える			
41	労働者	上司に自分で相談すれば、担当数を減らしてもらうことはできると思います。そしたら、パソコン作業が多少遅くてもこなせるかな。。。。						
42	先生	上司の方にはご相談しやすい環境なんですね。		上司や同僚といった職場環境を確認する		上司や同僚といった職場環境を確認する		
43	労働者	はい、相談したら仕事の配分は配慮してもらえそうです。						
44	先生	それならよかったです。ところで、取引先への移動は車ですか？		危険作業については、特に確認する。		危険作業については、特に確認する。		
45	労働者	社用車を運転します。						
46	先生	しびれは運転への影響ありそうですね。日常生活で、握る動作はどうでしょうか？		日常での作業に近い動作を確認して、適性を検討する。			日常での作業に近い動作を確認して、適性を検討する。	
47	労働者	(考えながら) 今、手すりや取っ手を握ったりは、できています。治療が始まってからは運転はなんとなく控えていたんですけど、この前、駐車場で運転してみたんです。いったんハンドルを握ってしまえば、あまりしびれは感じなかったですね。足のしびれはないから、プレーキも踏めましたし。あまり影響はないかなあとありますが。						
48	労働者の妻	私も助手席で見てたんですけど、普段と変わらなかったです。						
49	先生	そうですね。しびれの症状についての調整はご自身で対応できそうですね。						
50	先生	病気や症状を悪化をさせる状況はなさそうですね、よかったです。		医学的に避けることが望ましい作業について、医師の意見を述べる。			医学的に避けることが望ましい作業について、医師の意見を述べる。	
51	先生	他に心配なことはないですか？		心配なこと、困っていることを聞く	心配なこと、困っていることを聞く			
52	労働者	下痢の副作用が結構つづいているので、、、それが心配ですね。						
53	先生	ああ、心配ですよ。いろんな営業先に行つての打ち合わせがあるんですよね。具体的にどんな場面が心配ですか？		一方的に決めつけずに、少しずつ質問に焦点を絞って確認していく。	一方的に決めつけずに、少しずつ質問に焦点を絞って確認していく。			
54	労働者	1社あたりの滞在時間は30分程度なので、打ち合わせ中は大丈夫だと思います。移動も車なので自由がききますし。トイレがある場所をチェックするようにしようと思っています。ただ、、、不安なのは、通勤の電車です。ラッシュに巻き込まれているときに便意が来るとまずいなあと。						
55	先生	それは不安ですね。ラッシュの時間帯を避けるとかできたら、不安が軽くなるかもしれませんね。						
56	労働者の妻	(心配そうにうなづく)						
57	先生	お仕事の時間帯はご相談できる職場なんですか？		職場に利用できる制度があるか確認する		職場に利用できる制度があるか確認する		
58	労働者	うちはフレックスが使えるんですが、自分だけじゃなくて、取引先にも影響がある話になるので。。。。あの、意見書に書いていただけませんか？						
59	先生	わかりました。副作用の下痢症状があるので、ラッシュ時の通勤を避けられると助かることを伝えましょうね。(メモを書く動作)		職場で配慮した方がよいこと(合理的配慮)について、医師の意見を述べる			職場で配慮した方がよいこと(合理的配慮)について、医師の意見を述べる	
60	労働者の妻・労働者	(顔を見合わせにっこり)						

両立支援 NG面接		2021年1月8日追加		テロップの内容			
NGポイントごとに映像を一時停止し、NG!テロップをだす。断続的に進める。		最終テロップ 3/8	テロップ (ポイント)	コミュニケーション	医療情報取得	職場情報取得	意見書作成
1	人	内容					
		(診察の終了間際の雰囲気)					
2	先生	・・・はい。という説明で。じゃあ今日の診察はこれで終わりです。		×仕事についてたずね、支援が必要かどうか確認しましょう。			×仕事についてたずね、支援が必要かどうか確認しましょう。
3	労働者	あ、あの！先生、いま仕事お休みしてるんですけど、ぼちぼち戻ろうかと思って。					
4	先生	(食い気味に) あーはいはい、はい、はい。		×まずはじっと患者の言葉に耳を傾けましょう	×まずはじっと患者の言葉に耳を傾けましょう		
5	先生	会社に出す診断書、ほしいんですね。書きますね。(電子カルテに書き込もうとする)		×一方的に決めつけず、少しずつ質問に焦点を絞って確認していきましょう。	×一方的に決めつけず、少しずつ質問に焦点を絞って確認していきましょう。		
6	労働者	いえ、というか、来月から戻りたいと思っているんですが、そのご相談なくて・・・。					
7	労働者の妻	え？！ちょっと早いんじゃない？？！(不安そうに夫に小声で言う)(こぜりあい)					
8	先生	(二人の会話を遮りながら) まー、まー。なんかわかりませんが、そういうことは、ご家族で話し合ってください。		×患者や家族の心配なこと、困っていることをオープンな質問で聞きましょう。	×患者や家族の心配なこと、困っていることをオープンな質問で聞きましょう。		
9	先生	ご本人がするって言うてるのに、奥さんも心配しすぎじゃないですか		×受容的に接しましょう。	×受容的に接しましょう。		
10	労働者	いえ、する、っていうか、まだ決めてはいないんですけど。上司に復職の希望を伝えたら「今仕事をできる体調なのか」と訊かれたんです。。。何と答えたらいいでしょうか					
11	先生	まあ、前回のFOLFOX(フォルフォックス)後の好中球減少もグレード1だったし、いいんじゃないですか？		×わかりやすい言葉で心がけましょう。	×わかりやすい言葉で心がけましょう。		
12	労働者の妻	・・・それはどういう状態でしょうか？					
13	先生	つまり、よくある状態ってことです。(きっぱり)		×質問には、理解できるような説明しましょう。	×質問には、理解できるような説明しましょう。		
14	労働者	「よくある状態」って・・・そう言って、上司が納得するかどうか・・・。実は、今回の入院前、上司に病気で休むことを伝えたときに「いつ倒れるかわからないから、当分は戻ってこないでいい」と言われていたんです。そういう感じの上司なんです・・・。					
15	先生	そんなことを言うなんて、バワハラじゃないですか？！最低な上司ですね！そんな上司がいるなんてブラック企業なんですか？！		×会社・上司・職場の人の悪口は言いません。職場の人間に対して陰性感情を抱き、患者さんの復職へのモチベーションを損ないます。客観的立場で受け取りましょう。	×会社・上司・職場の人の悪口は言いません。職場の人間に対して陰性感情を抱き、患者さんの復職へのモチベーションを損ないます。客観的立場で受け取りましょう。		
16	労働者	まあ、確かに、言われたときは悲しかったです。あの上司の下に戻るのはいちど気が重いです。。。、					
17	先生	病人に対してそんな心無いことを言うなんて、ありえないわ～。私が医師としてかばいさんの気持ちを職場にばしと伝えて、かばいさんに特別に仕事を用意してもらおうようお願いしてあげますよ！		×患者さんの代弁者になってはいけません。職場には、あくまでも医学的見地から妥当な意見のみを伝えます。	×患者さんの代弁者になってはいけません。職場には、あくまでも医学的見地から妥当な意見のみを伝えます。		
18	労働者	(焦って) いやいや、それは結構です。大丈夫です。あの、会社に出す診断書を頂けますか。					
19	先生	じゃあ、「2月1日から復職可」という診断書でよかったですか。		×困っていることはないか、支援(主治医意見書)が必要ないか確認しましょう。	×困っていることはないか、支援(主治医意見書)が必要ないか確認しましょう。		
20	労働者	はい、それで、お願いします。					
21	労働者の妻	あ、あの！この人は出版社の営業の仕事なんです！(心配そうに)					
22	先生	(電子カルテ上で、ちょよよいと診断書を書きながら)へえ～知りませんでした。		×その人への関心を示したり、知ろうとする姿勢で聴きましょう。	×その人への関心を示したり、知ろうとする姿勢で聴きましょう。		
23	労働者の妻	忙しい仕事なんですけど大丈夫でしょうか。頑張りすぎでしまわないか心配で。					
24	先生	奥さん、そんなこと言ってもしょうがないですよ。まあ、病気が病気だし。でも、つらくても頑張るしかないでしょうね。		×否定的な言い方をしてはいけません。患者や家族の気持ちや気がかりを受容的に受け止めましょう。	×否定的な言い方をしてはいけません。患者や家族の気持ちを受容的に受け止めましょう。		
25	先生	(エンターキー、ぼん！)はい、診断書が書きました。		×仕事について情報を取得しましょう。		×仕事について情報を取得しましょう。	
26	先生	(書き終えて) 受付で受け取ってくださいね。かばいさん、無理せずにね～。通院、特に、化学療法の日だけは忘れないで来てくださいね。お大事に！(笑顔)					
27							
28			ポイント① 医療情報だけでは、復職の可否は判定できません。職場情報を具体的に取得しましょう。	×患者さんの医療情報だけでは、復職の可否は判定できません。患者さんの勤務情報や仕事の具体的な内容を聴取し、必要な支援を検討しましょう。		×患者さんの医療情報だけでは、復職の可否は判定できません。患者さんの勤務情報や仕事の具体的な内容を聴取し、必要な支援を検討しましょう。	
29			ポイント② 仕事の話題でも、円滑なコミュニケーションを図り、患者さんの困りごとを聴取しましょう。	×円滑なコミュニケーションがなければ、患者さんは困っていることを相談できません。患者さんとその家族の仕事に対する不安や心配を受容的な態度で臨み、困りごとを聴取し、必要な支援の検討につなげましょう。	×円滑なコミュニケーションがなければ、患者さんは困っていることを相談できません。患者さんとその家族の仕事に対する不安や心配を受容的な態度で臨み、困りごとを聴取し、必要な支援の検討につなげま		
30			ポイント③ 主治医意見書にて必要な就業配慮についての医学的見解を述べましょう。	×職場から勤務情報提供書を取得し、患者と十分な面接を行い、主治医意見書にて必要な就業配慮についての医学的見解を述べましょう。		×職場から勤務情報提供書を取得し、患者と十分な面接を行い、主治医意見書にて必要な就業配慮についての医学的見解を述べま	
4'	先生	仕事ですか。もう働かれるんですか。(少し驚きを含むソフトな話しぶり)	「もう働くのか」という主治医の発言は、「復職時期が早い」と主治医が判断をしていると患者さんには伝わる場合があります。再発を防ぐために出来るだけのことをしたいと思い、仕事の復職を遅らせることがあるでしょう。	×主治医の「もう働くのか」というコメントは、復職時期が早いとの判断をしていると、伝わる場合があります。再発を防ぐために出来るだけのことをしたいと思っている人の場合仕事の復職を遅らせることがあるでしょう。			
5'	労働者の妻	ほら、お父さんまだ早いんじゃない？再発だってあるのよ。					
6'	先生	(奥さんのコメントを否定せずに、やさしく) そうですね。負担がかからない範囲から始めてくださいね。	「負担がかからない」は幅がある発言です。コーディネーターとともに、実際に患者さんの仕事で、出来る業務、避けたほうがよい業務を具体的にリストアップできるとよいでしょう。				
7'	労働者	分かりました。。					